

♪♪♪ 宗次ホールおすすめ公演情報 2016年6月 ♪♪♪

チケットのご予約は 宗次ホール チケットセンターへ 052-265-1718(営業時間10:00-18:00)

6月はなんと36公演開催します！海外からの来演アーティストによるリサイタル・スイーツ公演に加えて同封の読み物でもご紹介する珍しい音楽体験・実験コンサートや人気のココロニ公演などもございます！雨の季節は室内で良い音楽を聴いてゆたかな時間を過ごしませんか♪

(文責:宗次ホール企画担当 廣田政子)

ブーレーズ、デュティユーも大絶賛のカリスマ フランソワ・サルク チェロ 成嶋 志保 ピアノ

6月11日(土)18:00開演 4,000円(学生2,400円) [指定]



“この上なく繊細な演奏家、現代の音楽を、類まれなる感性と知性をもって解釈する…”フランスを代表する作曲家、アンリ・デュティユーによる、サルクさんの評です。また同じくフランスを代表する作曲家・指揮者であるピエール・ブーレーズからも“桁外れなカリスマ”と評されるサルクさん。共演者の顔ぶれも、コンクールの受賞歴もここに書ききれない程、

名実ともに現代のチェロ界を代表するまさに“カリスマ”です。

室内楽の名手であるエリック・ル・サージュ(ピアノ)との録音はアマゾンや、海外のCDレビューサイトでも五つ星★の超高評価です。グラモフォン誌(英)では“フォーレのエレジー(今回の宗次公演プログラムに入っていますよ!)は、その美しさは聴く者の手を止め、思わず聴き入らせる名曲。しかし多くのチェリストが美しく演奏する曲であるが故に、その説得力は演奏家の腕によるところがおおきい。”とし、サルクさんの演奏について、“素晴らしいヴィルトゥオーゾでありながら、その音の幅広さと豊かな表情は聴く者の心を捉えて離さない。またあたかも「話しかける」かのように訴えるその演奏は、近い、心を許した相手と自分だけの間の親密な会話であるかのように、心惹かれる。”と大変良いレビューが書かれています。

日本でも、2011年にはサントリー芸術財団の設立者、佐治敬三氏を記念して贈る「佐治敬三賞」をピアニスト児玉桃さんとの共演リサイタルに於いて受賞し、“優れてフランス的なチェロの演奏～誰もが思い浮かべるであろう月並みのプログラムとは明らかに一線を画していた”と大絶賛されました。

ラ・フォル・ジュルネをはじめ世界中を飛び回るサルクさんは、すでに60か国以上で演奏。大変貴重な名古屋公演です！

俊英と名器の最後のコンサート

キム・ダミ ヴァイオリン 青木 美樹 ピアノ

6月12日(日)17:30開演 3,500円(学生2,100円) [指定]

2011年、第3回宗次エンジェルヴァイオリンコンクールで優勝して、ストラディヴァリウス“レインヴィル”が2年間貸与されていたダミさん。第4回のコンクールにあたり楽器を返上しましたが、その時にはハノーファー国際ヴァイオリンコンクールで優勝するなど、ますますの活躍を展開していたダミさんに、宗次オーナーの強い意向により新たな名器、ストラディヴァリウス“ロマノフ”が貸与されたのが2013年。今年、このロマノフも貸与終了となるので、俊英ダミさんがこの名器でのぞむ、最後の公演となります。



←ロマノフ貸与式にて宗次オーナーと

この写真の貸与式のときにはカルメン幻想曲(サラサーテ)を披露してくれたダミさんですが、この曲は彼女がファイナリストになったエリザベト王妃国際コンクールでも演奏した十八番。今回の宗次公演でも披露していただきます。

レインヴィルの貸与期間終了に伴い、楽器を手放す時には大切なパートナーと離れるようで大変悲しい思いをしたというダミさん。今回も3年連れ添い、数々の舞台を共にしてきたロマノフとの最後の宗次公演ということで、たくさんの思い入れで素晴らしい演奏を披露してくれるはず。

素晴らしい演奏を披露してくれるはず。

奇跡のトリオ、待望の宗次公演！

トリオ・ワンダラー

6月14日(火)18:45開演 4,500円(学生2,700円) [指定]



30年間もの間同じ鼓動を刻んできた、ピアノトリオの奥義を知り尽くしたチーム。ラ・フォル・ジュルネで彼らの演奏を聴いた人々からも、アマゾンや海外のCDレビューサイトからも、出てくる出てくる、賞賛の嵐です。6月の来日公演では宗次ホールを含んで全部で5公演。東京では二日間にわたってベートーヴェンのピアノトリオ全曲演奏会を開催しますが、名古屋ではピアノ三重奏の中でも特に人気の2曲という贅沢なプログラム。チラシに、彼らの演奏を称えた世界各国の有名音楽雑誌・新聞からのレビューをかいまんで掲載しておりますが、フランスのフィガロ紙によるレビューを改めてご紹介したいと思います！

～(省略)…コック氏(チェロ)もその音楽性と

息を呑む程のテクニックを披露する。～

ここでせっかくなので批評によく使われる英単語をひとつ。



●“brehtaking technical skills”

～息を呑む程のテクニック～

このBrehtakingという単語ですが音楽の評に限らず映画や、また美しい景色などを語る時にもよく使われる単語です。Breath(ブレス、息)+Taking(掴む、取る)で、まさに日本語でいう“息を呑む”になります。国が変わっても感動を表す表現が同じというのはおもしろいですね。

思わず“息を呑む”程にピッタリの3人の呼吸は“奇跡”と称されるほど。ハルモニア・ムンディ(仏)社からリリースされている音源についてもグラモフォン誌(英)より“現役最高峰のトリオというだけでなく、特筆すべき3人それぞれの個性が絶妙に混じりあい、あたたかさや明晰さが鋭敏な感性で完璧にまとめられている”と大絶賛。ラ・フォル・ジュルネでも感動の演奏を披露した彼らですが、貴重な名古屋公演をお聴き逃さないよう！

次世代の音楽界を担う若手の演奏を一気に！
東京藝術大学 宗次徳二特待奨学生による
ガラ・コンサート 第2回

6月18日(土)17:00開演 2,500円(学生1,500円)[自由]

「東京藝術大学・宗次徳二特待奨学生」とは、NPO法人イエロー・エンジェル理事長／宗次ホール代表の宗次徳二の寄付により2014年に創設された制度で、東京藝大の入学試験成績最優秀者、4つの専攻より各1名に対して、ほぼ学費と同額の奨学金が給付されるというものです。奨学生からは、「本来ならばアルバイトをしながら学校生活を送らなければいけないところ、この奨学生制度のお陰で経済的にも安心して生活を送れ、練習時間も確保でき、毎日音楽に没頭できています」といった嬉しいお声が。国内外での音楽研究活動を奨励することを目的とするこの奨学金のサポートで、現在ウィーンで研鑽を積んでいたり、夏期の長期休暇期間に海外の講習会に参加したりと、皆さん益々腕を磨いています。そして演奏家にとって、聴衆の前で演奏する機会というのは言うまでもなく大変貴重なもの。聴きにきてくださる皆様の存在もまた大きなサポートなのです！どうぞ、これから世界に羽ばたく若手たちを“聴いて”応援してください！

は感情表現がすごく伝わりやすい楽器。そういうところを中心に聴いてほしい“とのこと。

「尺八を知らない人へ尺八の素晴らしさを伝えたい」という強い想いから、ジャンルの垣根を超えて挑戦し続ける岩田さん。歌手坂本冬美さんとの全国ツアーや外務省より招聘された2011年のサウジアラビア公演をはじめ世界各国での公演、NHK日本賞授賞式に於ける皇太子殿下の前でのゲスト演奏やKinki Kidsの堂本剛さんのアルバム収録参加…等々、その活動の幅は多岐にわたります

尺八の生の音を聴いたことがないという方もぜひ、一度宗次ホールにて体感してみてください！

結成21年目になる“マイ・ハート”の波！

6月30日(木) マイ・ハート弦楽四重奏団



大人気“大人の音楽学校”シリーズにもご出演頂き、ベテラン4人の奏でる名曲とおもしろいトークで多くのお客様から素晴らしかった！とお声を頂いたマイ・ハート弦楽四重奏団。“ひとりひとりの心・想いをつなごう”という願いから生まれたこのカルテットの名前のとおり、その輪は結成20年を超えた今、益々大きく広がってきています。それぞれが多面で活躍するベテランの仲間達がシューベルトの二大弦楽四重奏曲を一度に演奏してくれます。必ず聴いておきたい名曲です！写真のような独特な配置での演奏がどう聴こえるか。お楽しみに！

（料金・時間は一律です）

お得なスイーツタイムコンサート！

（料金・時間は一律です）

13:30開演 2,000円 自由席 ※終演15:00予定

プレゼントチケット(ギフト券セット購入のおまけ等)2枚で入場可能

★チャリティーシート(指定席)AB列中央付近23席限定

スイーツタイムコンサートは、これからクラシック音楽をじっくり聴いてみたいなあという方、夜は出かけづらいので昼間に本格的な演奏を楽しみたいなあという方にぴったり。国際的にも活躍するベテラン演奏家から気鋭の若手までが登場。みな2,000円ではお得すぎるほどの素晴らしい演奏家たちです。ご期待下さい！

ベルリン・フィルに客演、注目度急上昇 ↗

7月5日(火) 景山 梨乃 ハープ



パリ・エコールノルマルを経て、ベルリン芸大とベルリン・フィルのカラヤンアカデミーに同時に在籍して研鑽を積み、ベルリン・フィル2番ハープとしてたくさんのコンサートにも出演された景山さん。2014年に帰国し現在は東京交響楽団のハープ奏者として活躍する期待の新星。先月には東京・春・音楽祭に東響首席ホルン奏者の大野雄太さんと共に出演されたばかり。「ハープの醍醐味は、軽みよりむしろ強さと重み。真価を知ってもらいたい」(毎日新聞)と話す景山さん。ひとりで旋律も伴奏も奏でられるハープ、今回のプログラムは元々ハープのために書かれていない作品も多数含まれています。留学中に教会で演奏する機会にも多く恵まれ、「スケールが大きい残響のイメージをホールで弾くときにも持つことができるようになった」と仰る景山さん。“教会で弾いているみたい”と多くの演奏家からのお声を頂くこの宗次ホールで、そのハープがどのように美しく響くのでしょうか。

尺八界の革命児！

6月15日(水) 岩田 卓也 尺八/MAKI ピアノ



三味線など、和物コンサートは毎回完売必須！今回は尺八です！

常滑市ご出身で、人間国宝の山本邦山師に師事。東京藝大在学中からNHK「紅白歌合戦(2002年)」へ出演するなど、幅広く活動されていた岩田さん。よく知られているクラシックのドビュッシー“月の光”やパッヘルベルの“カノン”などをも尺八で演奏してしまうという、伝統的なのにあたらしい、まさに和楽器の概念を覆す音楽です。

尺八は、演奏者が意図的に音色・音質を変化させられる楽器といわれており、吹奏楽で用いられる全

ての楽器がボタン(キー)を押して孔を押さえるのに対し、自分の指で孔を押さえます。また、木管楽器と異なり、自分の口で“リード”を作って空気の弁を振動させて音を出す点から、個々の演奏家独自の音が創れます。この独自の音に感情を乗せることができる点が『尺八にしか出来ない表現』であり、“表現者としてこれほど興奮することはない！”と言う岩田さん。

また必要な息のスピードよりも敢えて多くの息を吹き込み“オーバードロー”することによる技法、“ムラ息”も尺八の特徴。岩田さんの演奏も、このムラによる絶妙な音色のかすれ具合と発音のアタックがとても表情豊かです。

“この楽器の魅力を自分が一番感じる点は『歌う』ということ。尺八

☺ 6月はお得なギフト券+3 キャンペーン ☺

1万円分(1セット)ご購入で

プレゼントチケット3枚がつかます！つまり…

2セットご購入でスイーツタイム3回分無料！

詳しいお問い合わせ、チケットのご予約は

宗次ホールチケットセンターへ

☎ 052-265-1718